

## 代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。1日ずつ秋の気配が感じられるこの季節、皆様はお変わりございませんでしょうか。

今回は先日、沖縄市で開催されたバスケットボールワールドカップで見事に自力でのパリ五輪出場を決めた男子日本代表チームに注目しました。

今大会は1次リーグ第2戦でフィンランドに98-88で逆転勝利し、順位決定リーグ初戦でもベネズエラに86-77で逆転勝利。最終戦で北西アフリカの島国カーボベルデに勝利し、アジア勢6カ国の中で最上位を確定させ、1976年モントリオール大会以来48年ぶりの自力での五輪切符を手に入れました。エースと期待された八村塁（レイカーズ）が大会を欠場したが、渡辺雄太（サ

ンズ）を中心にベテランと若手の融合で結果を残しました。その陰には東京五輪で女子日本代表コーチを務め、大躍進させた現男子代表監督のトム・ホーバスの存在が不可欠です。

ホーバス監督は、トヨタ社員、NBA選手、IT副社長、FBIも目指した経歴を持ち、日本語で選手たちに激を飛ばし、他国から比べれば低身長の日本人の特徴を活かした戦略で結果を残してきた監督です。日本人の細かい努力を惜しまない国民性や団結力の高さを大きく評価し、戦略に取り入れました。ホーバス監督は『愛するバスケットボールを、日本のメインスポーツにしたい』と究極の夢を思い描いているようです。

夢を実現させる為には、どんな逆境であろうとも決して揺るがない【断固たる決意が必要】だと私も痛感させられました。

皆様も夢のある明日に向かって、元気な毎日を送られる事を切に願っております。

秋の装いが深くなる毎日ですが、皆様くれぐれもご自愛ください。

## サンライズの物語

### 励ますことの難しさ—— 言葉の力について考える物語

その方はいつも自分の人生を悲観し自殺願望の強い方でした。

生い立ちも壮絶で巡り合ったご主人とも縁に恵まれずに一人で暮らしていたのですが

いつもアクシデントが起こるとイコール死にたい。とってしまう方です。

どんな励ましも受け付けずに死ぬ方法を口にしては周囲を翻弄していたのです。

そんな方を励ます言葉をいつも探しては悩んでいたのです。その方の心を動かす言葉・・・自分の小さな引き出しから取り出す作業を何度も試みたのですがなかなか動かす事はできなかったのです。以前ドラマの中で「生きている限り誰にも負けないわよ」と言う言葉に心打たれた記憶があります。複雑な社会情勢のなか、心を病んでいる人は沢山います。今、地域包括ケアシステムから地域共生社会構築が叫ばれていますが、心を軽くする言葉を持っているメンタルケアの専門職や地域の住人が個々の自宅を訪問することで一人の人を皆の力で支え合う社会になる事を願って止みません。



# サンライズのデイサービス陽光だより



## 10月カレンダー製作

各自、折り紙でかぼちゃのおぼけやこもりを作り、貼り付けてカレンダー工作をしました。



## 誕生日

誕生日カードを差し上げおやつでパンケーキを出しました。皆さん「ありがとう」「パンケーキ美味しい」と言って喜んで召し上がっていました。



## NEWS 今月のニュース

### ごみ処分、カ仕事、買い物… 電話一本で代行 群馬・高崎市の 新たな高齢者SOSサービスに 「助かる」「得した」

高崎市が高齢者の生活支援として導入した、電話一本でカ仕事を手伝える「高齢者カ仕事SOS」と、買い物を宅配する「高齢者世帯買い物SOS」の二つのサービスが9月1日に始まった。利用者からは「処分に困っていたので得した気分」「玄関先まで届けてくれて助かる」といった好意的な反応が寄せられている。市は今後、サービスの拡充を視野に、さらに利便性を高めていく。

「カ仕事」はたんすなどの粗大ごみ処分や家具の移動を手伝う。処分費用は自己負担となる。2人一組で作業し、1時間程度で済む仕事を対象で年1~2回の利用を想定。市内を3地区に分け、「ごみ出しSOS」にも携わる3業者に委託した。15日現在で205件の依頼があり、136件を処理した。粗大ごみの処理が約7割を占めている。

平児玉安雄さん(78) = 下大島町 = はブラウン管テレビの処分を依頼

した。委託業者の2人が訪れ、リサイクル料を預かって車に積み込んだ。「持っていってくれる業者もなくて『弱ったな』と思っていた」と感謝した。

「買い物」は事前に利用登録すると、商品リストが届き、新型コロナウイルスに感染した時や持病が悪化した時に月2回まで利用できる。旧多野郡と旧群馬郡を1業者が、旧市内を1業者がそれぞれ担当している。利用者は業者に直接電話し、リストの番号で注文。配達時に料金を支払う。22日現在で413件の登録があり、11件利用があった。

15年ほど1人暮らしをしている樋口松枝さん(84) = 吉井町馬庭 = は12日に初めて注文。肉などの生鮮を含め約6000円分購入し、玄関で配達員から受け取った。これまでは週に1度の移動販売車がほぼ頼りだった。手押し車で家から3分ほどだが、「玄関先まで持ってきてくれてありがたい。移動販売だと商品がないと注文になるけど、欲しい商品が全部そろう」と笑顔。ペットボトル飲料を箱で購入できたことも喜んだ。

「カ仕事」は重量のかさむ商品の

買い物支援を盛り込むことを検討したが、廃棄物処理が本業の業者への委託となり、ノウハウ不足などから見送った。旧市内の「買い物」は衛生管理を充実させた上で生鮮の取り扱いを始める予定。

市は、「介護」「子育て」「ヤングケアラー」など六つのSOSサービスを展開している。それぞれをより使いやすくしていくとともに、各SOS間で連携してカバーしあえる点がないかの検討も必要となりそうだ。



「買い物SOS」で注文した商品を玄関先で受け取る樋口さん(左)

<上毛新聞 23/9/27(水)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>